

名取市市民活動 支援センターだより

2015年
3月号
Vol.8



居場所づくりに関心のある様々な分野の参加者が集いました

安心できて認めてもらえる「居場所」

1/30(金) 名取市市民活動支援センターにて、誰でも気軽につくれる「居場所づくりを知る」講座を開催しました。

講師の認定NPO法人杜の伝言板ゆるる代表理事大久保朝江さんは、『みんなが“ここに居ていいんだよ”と安心できる居場所づくりが、地域から期待されています』と話しました。居場所を運営するには、なかなか難しい点もあり、自発的に善意で集



講師の大久保さん

まった仲間に、リーダーが上から下へ指示や号令を出すピラミッド型では、せっかく共感して集まった大切な仲間達が離れていってしまうといえます。

「問題意識を共有できる仲間を募り、どうやって進めるのか合意形成を大事にしながら、お互いを尊重し合う『在り方』が一番大切です。その上で、問題解決の先にある『市民生活の向上』を目指すこと。これまでの人生で自分が学んで来た経験を、地域に活かす（還元する）ためにも、考えているだけでは始まりません。まずは仲間を探して、月1回でもいいから集まれる居場所づくりをはじめてみましょう!」と、大久保さんのはげましの声に、会場は前向きな反応が見られました。

「居場所づくり」のキッカケと原動力

ゲストのNPO法人FOR YOU にこにこの家（にこにこの家）理事長の小岩孝子さんは、関上に隣接

1/30(金)

「居場所づくりを知る」

講座を開催しました!

する東四郎丸や東中田地区で元気サロンの活動を展開しています。「居場所づくり」についてご自身の様々な経験を語っていただきました。

活動を始めたキッカケは、平成7年1月に起きた阪神淡路大震災でした。小岩さんは、会社の研修時代に1ヶ月神戸市に住んだことがあり、発災時、何もできない自分にもどかしさを感じていました。その数か月後に、市民センター主催の介護ボランティア入門講座があることを知り、積極的に参加しました。修了後、一緒に受講した仲間と、保健センター



ゲストの小岩さん

のボランティアとして簡単な手伝いを始めました。その後、仲間とともに、公的な制度を活用しながら平成15年4月、にこにこの家は立ち上がります。

高齢者や身体の不自由な方、支える家族や子どもの声を聴

き、『あったらいいな こんな家』という地域に暮らす人の想いを大切に、少しずつ形にして来ました。

高齢者のサロンやクラブに来る人だけではなく、コーヒーを飲みに来る人、手作り品のマーケットを見に来る人、ランチを食べてのんびりおしゃべりに来る乳幼児親子やご家族、サークル仲間、子供の一時預かりを頼みに来る人、そしてボランティアとして参加に来る子どもたちでいつも賑わっています。

お手伝いから始まった小岩さん達の活動は、いろいろな人が集まる憩いの居場所に、そして相乗効果で良いことがたくさん起きる“地域の交流の場”に変わって行きました。今では、このエリアのネットワークの事務局を担うまでになっています。



居場所のあれこれ情報交換会のお話

「居場所づくりを知る」講座の後には、情報交換会を開催しました。

参加者は、居場所づくりやサロン運営で知りたいことや悩みを講師の大久保さんやゲストの小岩さんも交えて、一緒に考えました。

地域のため、 そして自分のために何かできたら

まず、「仲間をどうやって集めたらいいんだろう」という質問には、友達や周りの人に「自分の思いを、あらゆる方法で伝えることが大切」とアドバイスがありました。居場所づくりは「“やりたい” 想いの仲間が集まって、“できる” ことから始め、走りながら修正していくということもあります」と大久保さん。

例えば、朝力フェやパソコン教室、ゆっくり話せるサロン、食事を提供するミニレストランなど。最初は、あまり構えずに自宅の一角から無理なくはじめてみては？との助言もありました。

町内会役員の方からの「活動を始めるとき、行政窓口にご相談しましたか」との質問に、「もちろん足を運びました。すると助成金を出している担当課につないでもらいました。地域は、町内会や社会福祉協議会、学校、福祉施設など様々な団体があり、つながることはとても重要です。協力的な専門家に相談しながら進めることも必要ですね。」と小岩さん。

「居場所を作ってほしいという要望があっても、なかなか進められないんです」という悩みには、「私たち地域の一人ひとりが『あったらいいなあ、できたらいいなあ』を一緒に形にして行くことで道が開けます。」と語ります。地域の声を聴きながら活動続けることで、新しい出会いと気づきが生まれます。

地域の皆さんと共に歩んで来た大久保さんと小岩さん。始めるためのアドバイスを2ついただきました。

1つは「まずはできることからやってみる」こと。2つめは「やりながら考えて動く」こと。

あたりまえのことのようですが、実行する難しさとやってみる大切さに、参加者も改めて共感しました。

高齢化と少子化の課題解決への糸口

今年4月から介護保険制度が改正に伴い、3年の間に、要支援者に対しての介護サービスが変更になります。これからは、地域で高齢者を支える仕組みが必要になります。その担い手は、元気な人なら誰でもが期待されています。

住んでいる地域で起こる様々な課題や困りごとを、行政区域の“地縁型組織”だけでは解決が難しいとされる超-高齢化社会、『市民生活環境の向上』を目指すには、地域や多様な団体の枠を越え、同じ目的を持った人々が集まる“志縁型組織”との連携が欠かせないと、大久保さんは言います。



お茶とお菓子で和みながら情報交換

参加者からは「二人の話にとっても共感できて、これから動いていくにあたって、お力添えをいただきました」との声が上がりました。

一人では難しいことでも、学んできたことを持ち寄ることで、徐々に活動の輪が広がって行くイメージが湧いたようです。

情報交換会では悩みを解決しながら、『こんなことやあんなこともできそう』、と可能性の糸口を共有できました。



パートナーシップと市民活動支援

NPO法人パートナーシップなとり

名取市で活動する市民活動団体が継続して活動できるように応援することで、名取市がさらに住みやすい地域になることを目指し、昨年の3月、NPO法人パートナーシップなとりを設立。まもなく2年目を迎えるにあたり、代表理事の阿留多伎真人さんと副代表理事兼事務局長の洞口のり子さんに、この1年の活動とこれからの抱負を伺いました。

昨年の5月に法人設立を記念して市民活動団体の交流イベントを開催。その後は、気軽に市民が市民活動団体を知る市民活動支援講座を隔月、開催してきました。講師は、いずれもパートナーシップなとりの理事の面々です。

第1回は、『分野を超えて子育てを考える』をテーマに、名取市で子育て支援活動に取り組んでいるNPO法人子育て応援団ひよこ理事長の齋藤勇介さんが、市民活動団体が分野を超えてどのように子育てに関われるかを取り上げて交流の場を持ちました。

第2回は、『地産地消と食糧事情』をテーマに、名取で野菜を生産し個人宅配しながら地産地消に取り組んでいる産直ネットワークなとりの代表、洞口のり子さんが、農産物を取り巻く環境について話し、後半は新鮮な食材を参加者とともに戴きました。

第3回は、『高齢者や障がいのある方にやさしいホームページ』と題して、NPO法人イー・エルダー東北支部の武藤正勝さんが、HPを作る際の思いやりの視点について、既存の様々なホームページの特徴や改善点などを教えていただきました。

年が明けての第4回は、『知らないと損する労働基準法』をテーマに、社会保険労務士の鈴木孝幸さんが雇用に関する細かな仕組みを話しました。知っているつもりで、知らなかった給与計算の仕方なども楽しく教えていただきました。

そして第5回に当たる3月は、名取市が主催するパネルトーク『子育てもコミュニティづくりもみ

んなで』に、代表理事の阿留多伎真人さんがコーディネーターとして協力することになりました。パネ



代表理事の阿留多伎さん

ラーには、石巻市で子育て中のママを支援する荒木裕美さんと大崎市でまちづくりやコミュニティづくりのサポートをしている小玉順子さんをお迎えしました。

阿留多伎さんは、尚絅学院大学生生活環境学科の教授で、都市計画やまちづくりが専門です。一方で、以前から名取市の中心市街地を活性化しようと活動するリバイブ名取21の中心メンバーとしても活躍しています。毎年、発光ダイオード（LED）のピカボードで様々な作品を飾る「光のストリートアート展」を実施し、昨年末は、「妖怪ウォッチ」や「アナと雪の女王」のキャラクターなどが登場しました。パートナーシップなとりが2年目を迎えるにあたり、阿留多伎さんは「名取市の市民活動団体をもっと活発に活動を続けていけるように、市民団体を巻き込み、行政と協働しながら、名取市がより住みやすい地域にしていく力になりたい」と抱負を語りました。

また副代表理事の洞口さんも、「市民活動に限らず自治会や組合などいろんな団体があるので、その



副代表理事の洞口さん

団体同士を繋げていきたい。活動していく中で、団体が何か困ったときに、パートナーシップなとりに行けばいいと思ってもらえるようになりたい」と話しました。名取市に初めてできた

市民活動団体の支援組織『パートナーシップなとり』の今後に期待します。

NPO法人パートナーシップなとり

〒981-1232 名取市大手町5丁目6-1

市民活動支援センターLC内

TEL: 090-5848-3264 (洞口)

URL: <http://ps-natori.org/>

名取市市民活動支援センター Information

新なとセン おひろめ会

平成27年3月28日(土)

新・市民活動支援センター完成おひろめ会開催!

『なとセン』(名取市市民活動支援センター)が、4月1日から利用できるようになります!

その前に、どんな施設になったのか、おひろめ会を開催しますので、ぜひ、お出ください。

名取市で活動している多くの団体の活動紹介と展示、そして交流会も同時開催です!

日 時: 平成27年3月28日(土) 13:00~15:30

会 場: 名取市市民活動支援センター 全館

参加対象: 名取市の市民活動団体、ボランティア団体、自治会など、関心がある市民

●プログラム●

13:00~ 開会 施設見学

13:20~ 各団体パネル展示及び活動紹介

14:30~ 会議室にて交流会

参加者は、随時、団体展示や紹介を聞きながら館内を自由に見学できます。

●参加費: 無料

- 主な展示団体●(3/9現在の申込順で掲載。この他にも多数参加予定)
- | | |
|-------------|--------------------|
| 関上復興だより | 国際交流協会 ともだち in 名取 |
| 方言を語り残そう会 | 防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」 |
| 宮城根っこ会 | パートナーシップなとり |
| SA・KI・EーPAL | なとり ハワイアン・フラ |
| イー・エルダー東北支部 | フラ・フレイゼなとり |
| 名取昔ばなし語りの会 | 世界子供短編映画祭@masda |
| 手倉田枳取り舞保存会 | 脳キラッとなとりの会 |

主 催: 名取市

企画・実施: 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

発行日: 平成27年1月15日

発行: 名取市市民活動支援センター

発行部数: 1,000部

編集: 特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる

問合せ先: 〒981-1232 宮城県名取市大手町5丁目6-1

TEL: 022-382-0829 FAX: 022-382-0841

E-mail: npo@natori-npocenter.or.jp

HP: <http://www.natori-npocenter.or.jp>

Blog: <http://blog.canpan.info/natori>

展示団体
同時募集中!

新しいなとセンで、
皆さんの活動紹介をしましょう!

参加団体には、展示用のパネル1枚を提供します。当日は、13時までに展示物を完成してください。

(会場は、11時から準備ができます。)

なお、13時から15時30分まで団体の活動を紹介する説明者が必要です。

ご希望の団体は、団体名、連絡先を明記し、センター窓口、FAXまたはメールにてお申し込みください。



★お車でお越しの方★

- ・センター向かいの手倉田公園内
- ・臨時として名取駅西口交差点駐車場内
サッポロビール園側に3台分(626, 627, 628)

